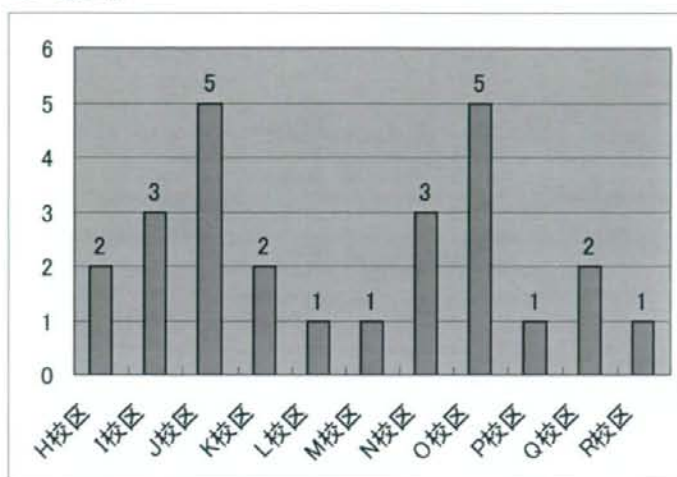
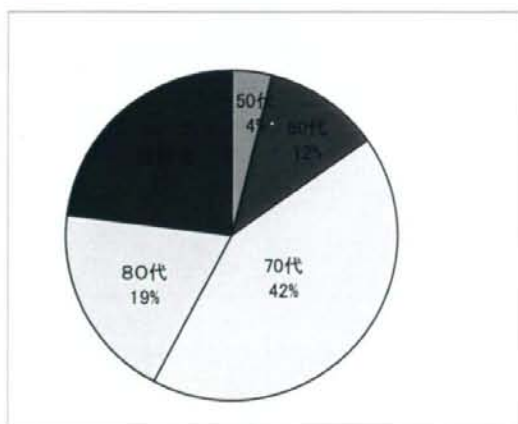


② 校区別

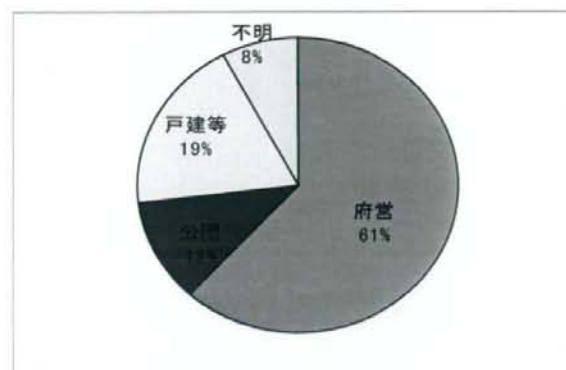


③ 年代別

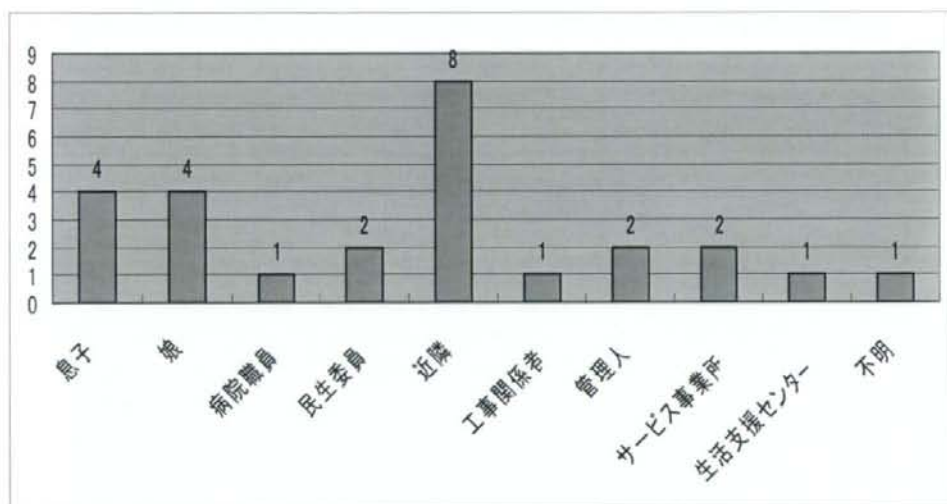


50代	60代	70代	80代	年齢不詳	計
1	3	11	5	6	26

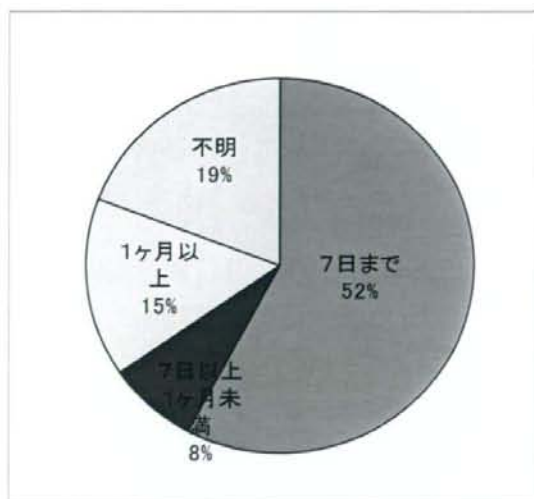
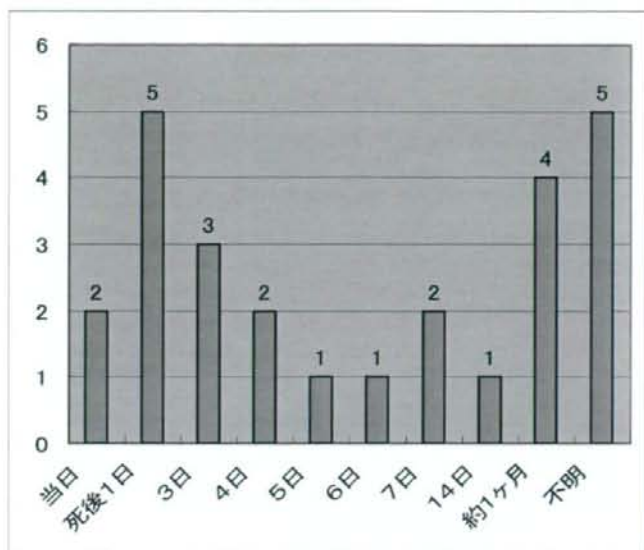
④ 住宅別



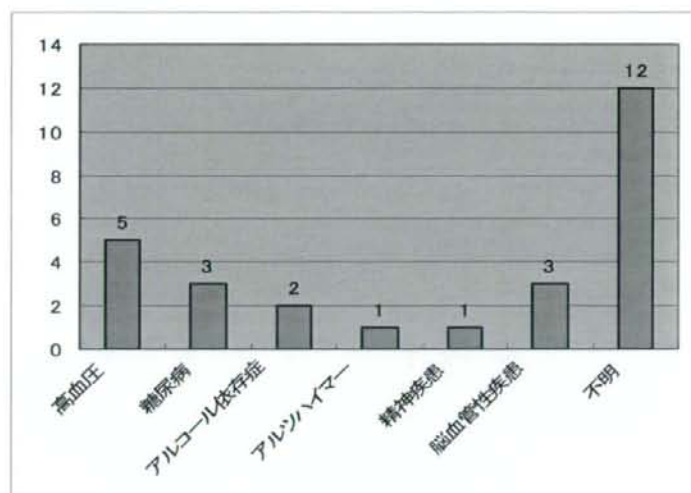
⑤ 第一発見者



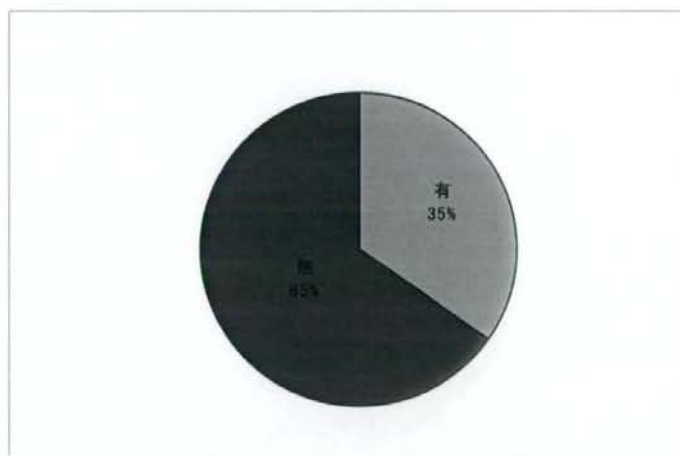
⑥ 発見までの日数



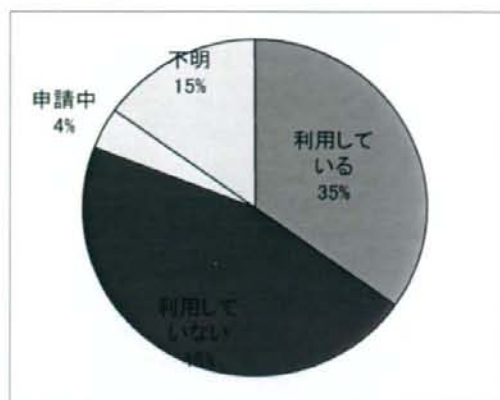
⑦ 慢性病の有無



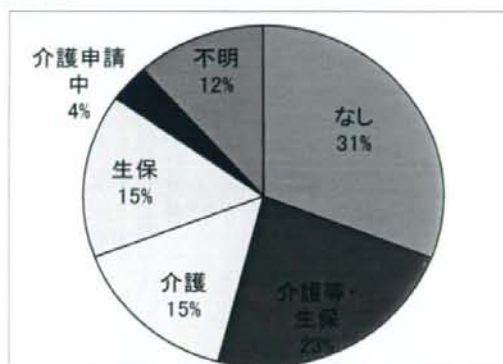
⑧ 生活保護受給の有無



⑨ サービスの利用



⑩ 見守り環境



【結果】

- ・親子の1家族を除いて全員一人暮らしでした。
- ・男性が女性の2/3を占めていました。
- ・今回はI、J、N、O小学校区からの情報が多く挙げられました。
- ・年齢別では、70代、80代が合わせて6割強を占めていました。
- ・住宅環境では、府営住宅に住まれている方が61%でした。
- ・第1発見者は、近隣と子どもが最も多くなっていました。
- ・発見までの日数は、3日までが約38%、7日まででは52%でした。
- ・生活保護受給は、全体の35%でした。
- ・サービス利用においては、約半数は利用していませんでした。
- ・見守り環境では、31%が人との交流がない状態でした。
- ・介護保険や生活保護受給など何らかの見守りがありは53%を占めていました。

3. 平成20年度の取り組み(平成20年4月から12月)

1)見守り組織育成に向けた取り組み

校区における災害時要援護者の見守り・独居高齢者や孤独死・困難ケースについて情報を共有するとともに課題解決に向けての話し合いを行いました。具体的な内容については下記のとおりです。

	回数/年	スタッフ	内容
民生委員会 A地区	4回	地域包括支援センター、校区福祉委員、在宅	見守りの視点について
B地区	3回	介護支援センター、地域福祉課、生活支援課	見守りの視点について
民生委員会 C地区	1回	等行政関係者、社会福祉協議会、その他	地域情報の共有
民生委員と地域ケアマネとの交流	1回	*スタッフメンバーの構成は流動的で、内容によって編成していきます。	地域の情報交換と親睦
地域ケア会議	3回		定例会議における見守り視点の共有

2)「見守り訪問チェック表」(案)の作成

地域で見守り活動を実施しているが、経験年数が浅いと不安やとまどい等があるため、「お元気ですか訪問活動」が開始されるのを機会に、A地区民生委員会において見守りチェックシートの活用を提案。シートは地域包括支援センターと在宅介護支援センターと一緒に作成し現在試行中です。

シートを今後どのような形で、活動に反映していくかを検討中ですが、少なくともこうした啓発活動は、見守る視点を高める機会になると考えます。

南区 見守り訪問チェック表(票)(対象者氏名:) H 年 月分

項目	内容	(日)	(日)	(日)	(日)
医療・福祉等の関係	医療が必要と思われるが受けていない。				
	定期に受診していないようである。				
本人状況(精神的)	薬がきちんと服用できていない。飲み忘れが多い。				
	介護が必要と思われるが受けていない。				
認知面	食事がきちんととれていないようである。				
	身体の清潔保持ができていない状況である。				
	急激な環境の変化があった(身内や友人の死など)				
	時間や日付けが不確かになってきた。				
意欲・関心	同じことを何度も言ったり、聞いたりする。				
	服装の乱れや以前よりだらしくなった。				
	さびしがったり、怒りっぽくなってきた。				
環境面	火の不始末が時々あるようである。				
意欲・関心	何を聞いても「いいよ、いいよ」と言って遠慮をし、あきらめの態度がみられる。				
	自分に対して無関心、無気力な状態である。				
環境面	ものごとや自分の周囲に関して、極度に無関心になる。				
	不衛生な生活(ゴミの放置や虫がいる)、汚れた食器等。				
経済面	家屋や窓が壊れており、危険な部屋や住居の状態である。				
閉じこもり	電気、ガス、水道が止められていたり、新聞、テレビの受信料、家賃等の支払いを滞納しているようである。				
	カーテンや雨戸が閉まったままの状態である。				
孤立	寝巻きやパジャマのまま過ごすことが多くなっている。				
	外出が週1回程度以下になってき。				
消費生活	近隣とのつき合いがなくなってきた。				
	近隣との人間関係悪化、トラブルになることが多い。				
緊急性	家庭内もしくは別居家族との関係がよくないようである。				
	見慣れない商品や、必要と思われる商品を見かけた。				
困りごと(内容)⇒	金融会社からのダイレクトメールや請求書等を見かけた。				
	1週間以上、新聞受けにチラシ等が溜まった状態である。				
備考	夜遅くなくても灯がともらない。				
	カーテンや雨戸が閉まりっぱなし。				
備考	洗濯物が干しっぱなし。				
	何か困りごとや不安ごとや悩みごとがあるようである。				
備考	何か困りごとや不安ごとや悩みごとがあるようである。				
備考	・正月三が日はどう過ごされたか？				
	・親しい友人知人がいますか？				
備考	・社会参加活動をしていますか？				
	※社会的孤立判断のめやす⇒上記を会話の中で聞いてみる。2つ以上該当は「社会的孤立状態」と判断する (資料:河合克憲「社会的孤立」2006年東京都港区一人暮らし高齢者964人調査より)				

※訪問後、気になる箇所にチェックを入れる (見守り担当者:)

3) 孤立死等の各種困難事例への支援件数

以下は、19年度に地域包括支援センターに相談があり何らかの対応をした件数を挙げたものです。(平成20年度の集計結果はこれからです)

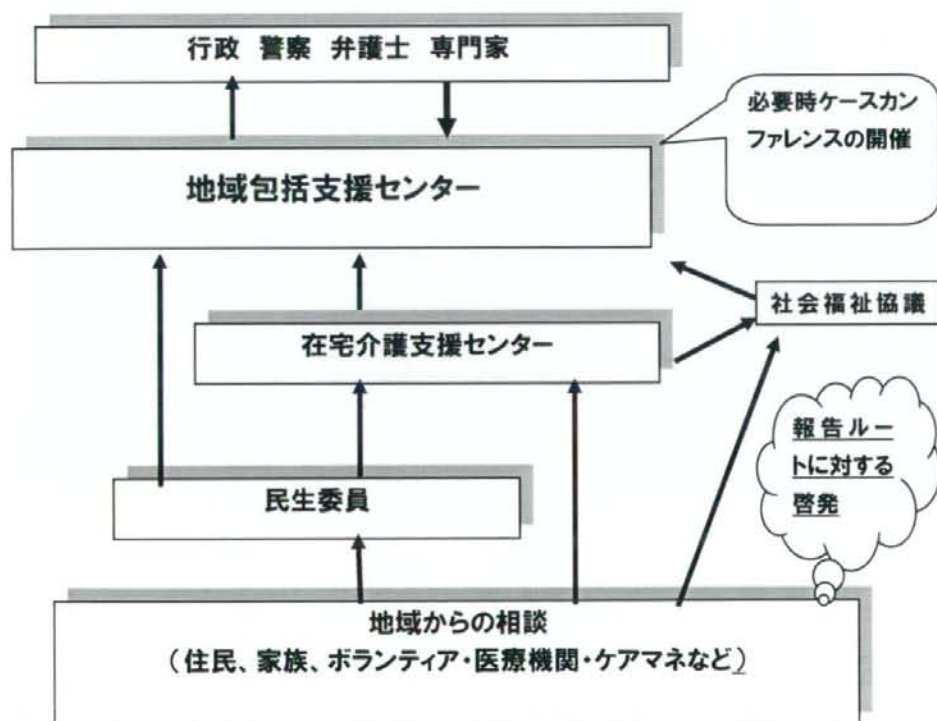
困難事例取扱い件数(虐待・困難・成年後見制度に関する事)

	全件数	虐待	支援困難	成年後見制度に関する事
平成19年	225件	111件	53件	61件

4) 困った時の報告ルート(案)

地域の中には、独居高齢者世帯や、家族がいても家族関係が崩壊している世帯、また多問題を抱える世帯など、複雑なケースが増加してきています。そのため、どうしたら良いか迷うようなケースを発見した場合の報告ルートについて、市民を対象にした啓発活動を行うことが必要であると考えます。そのため、現在以下のような報告ルートを検討中です。

困った時の報告ルート(案)



3. H20年度の研修・啓発活動

1) 南区グループホーム職員向け研修会

研修会内容：認知症予防・認知症サポーター養成

参加者：9施設の管理者等26名

2) 介護者家族と一般の人向けの研修会

研修会内容：物忘れ対策基礎講座～認知症について考えてみよう～

参加者：春と秋の2回実施 参加者はいずれも40～50名

3) 2)の春に実施した講座に参加された介護者家族の方々によって、自主活動として介護者交流会が新たに発足されました。

○地域・団体向け

・C地区婦人会を対象に介護予防を認知症予防学習会 参加者：15名程度

・介護者家族と一般の人向けの研修会

研修会内容：物忘れ対策基礎講座～認知症について考えてみよう～

参加者：春と秋の2回実施 参加者はいずれも40～50名



春に実施した講座に参加された介護者家族の方々によって、自主活動として介護者交流会が新たに発足されました。

・NPO等

認知症予防・認知症サポーターについて

○事業所・施設向け

・南区全体グループホーム職員向け研修会

研修会内容：認知症予防・認知症サポーター養成

参加者：9施設の管理者等26名

・Aグループホーム運営推進会議にて認知症予防・見守り学習会予定

対象：職員、家族、校区関係者、周辺地域住民 参加予定者 40名程度

・Bグループホーム運営推進会議にて認知症予防・見守り学習会予定

対象：職員、家族、校区関係者、周辺地域住民 参加予定者 20名程度

○行政向け

・認知症の理解と認知症サポーターについて

対象：南区管理職 参加予定 20名程度

第3章 調査結果

1. 研究目的・方法

1) 目的

2) 対象者

堺市南区〇校区の高齢者の見守りネットワーク地域ケア推進チームメンバー71人

3) 方法

集合調査による自記式質問紙調査

4) 期間

平成19年3月

5) 調査内容

基本属性（性、年齢、地域での役職・職種）、地域での活動内容、見守り内容、孤立死防止に関する項目

6) 分析方法

基本属性別等に地域での活動内容、見守り内容、孤立死防止に関する項目を比較、検討する。

7) 倫理的配慮

本研究は甲南女子大学看護リハビリテーション学部の研究倫理委員会の承認を得て実施した。また、堺市の個人情報保護条例を遵守して行った。

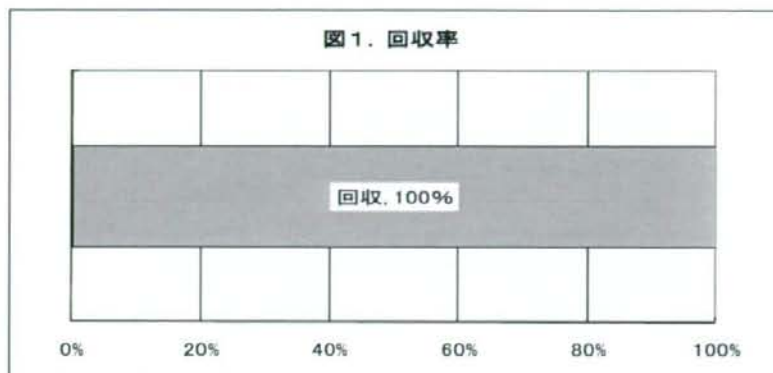
研究対象者へ研究の主旨、匿名性、研究への参加は対象者の自由意志であり、不参加の場合に不利益を被るものではないこと、途中でいつでも参加中止が出来ること、得られたデータは本研究目的以外に使用しないことを記載した調査依頼文を配布し説明し研究協力を依頼し、同意を得て行った。

共同研究をおこなう堺市南区とデータの取り扱い、研究の進行について十分協議し、密接に連絡をとりながら進めた。

2. 結果

1)回収数(回収率)

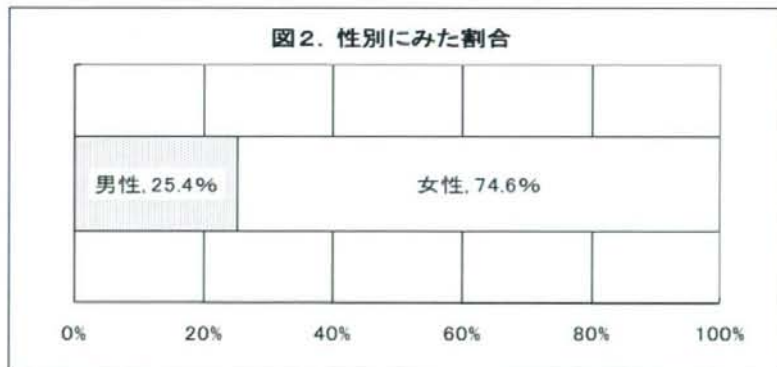
回収数 71 (回収率 100%) であった (図 1)。



2)基本属性

(1)性別

男性 18 人 (25.4%)、女性 53 人 (74.6%) であり、女性の方が多かった (表 1、図 2)。



(2)年齢

60歳代が35人(50.7%)と最も多く、次いで70歳代の17人(24.6%)であった。80歳代も1人(1.4%)と、高齢者が多かった(表1、図3)。

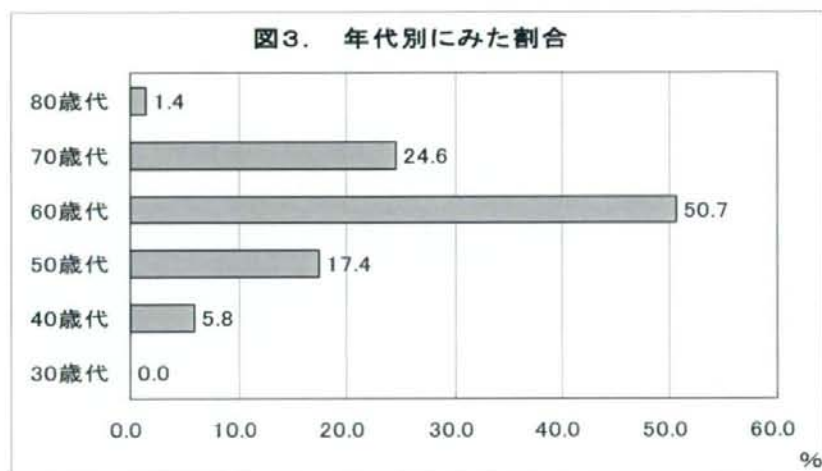


表1. 性別、年齢階級別にみた割合

年齢階級	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
30歳代	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40歳代	2	2.8	2	2.8	4	5.6
50歳代	1	1.4	11	15.5	12	16.9
60歳代	8	11.3	27	38.0	35	49.3
70歳代	6	8.5	11	15.5	17	23.9
80歳代	0	0.0	1	1.4	1	1.4
無回答	1	1.4	1	1.4	2	2.8
合計	18	25.4	53	74.6	71	100

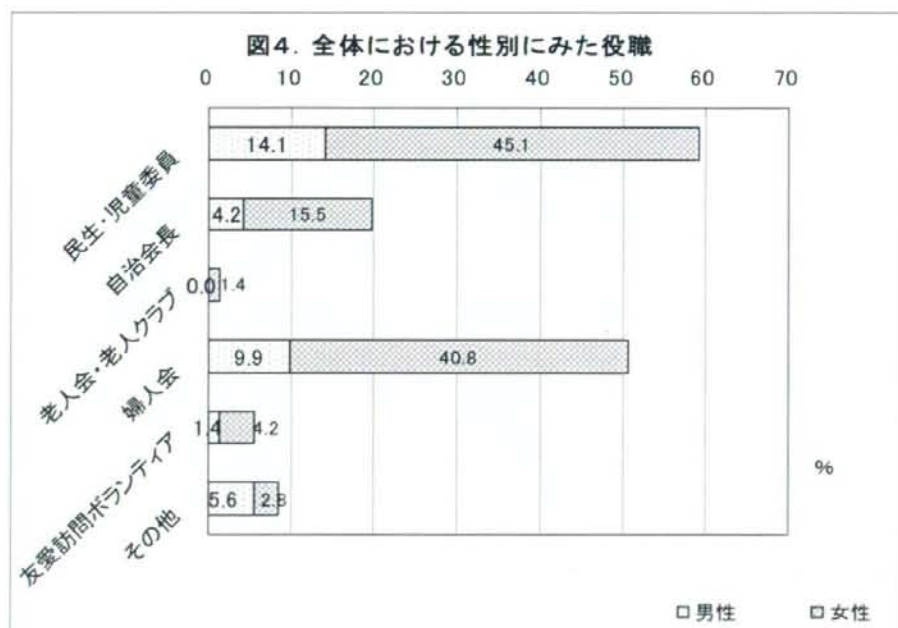
(3) 地域での役職

地域での役職別にみると（表2）、民生・児童委員が59.15%と約半数を占めていた。また2つ以上の役職を兼任しているものは32人であった。

各役職の男性・女性の比率は図4の通りである。

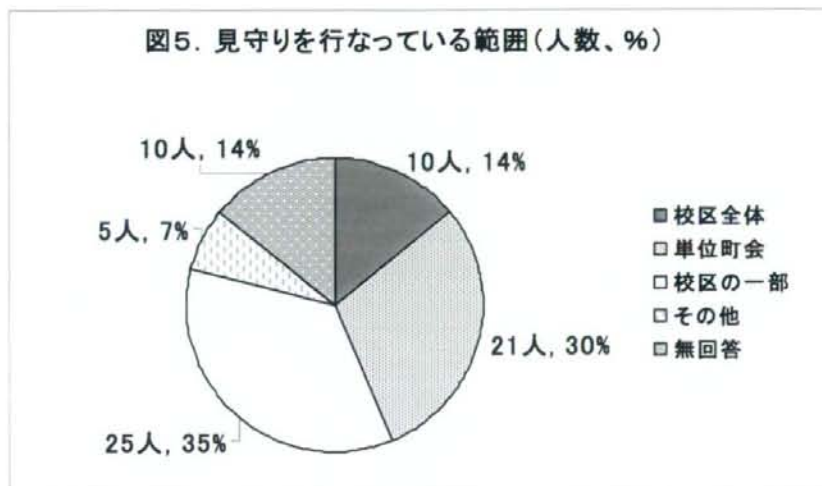
表2. 全体における性別にみた役職

	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
民生・児童委員	10	14.08	32	45.07	42	59.15
自治会長	3	4.23	11	15.49	14	19.72
老人会・老人クラブ	0	0.00	1	1.41	1	1.41
婦人会	7	9.86	29	40.85	36	50.70
友愛訪問ボランティア	1	1.41	3	4.23	4	5.63
その他	4	5.63	2	2.82	6	8.45
	25	35.21	78	109.9	103	145.07



(4)見守りを行なっている範囲

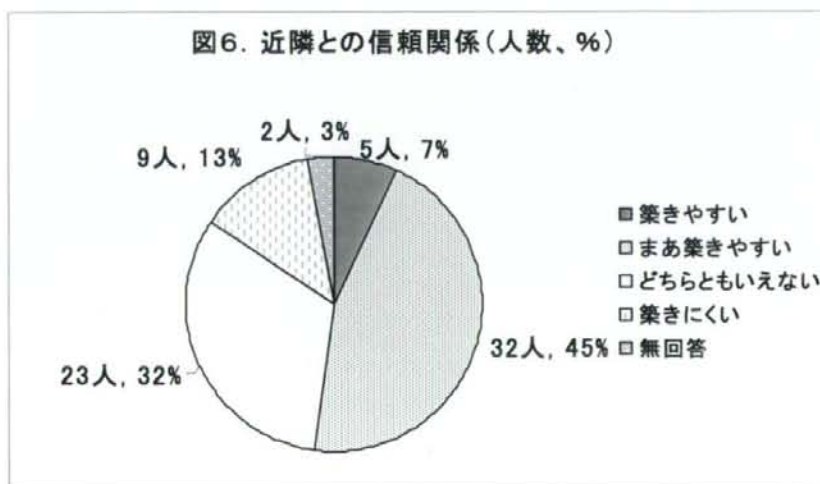
見守りを行なっている範囲をみると(図5)、「校区全体」が10人(14%)、「単位町会」が21人(30%)、「校区の一部」が25人(35%)、その他が5人(7%)、無回答が10人(14%)であった。



3)校区に関する内容

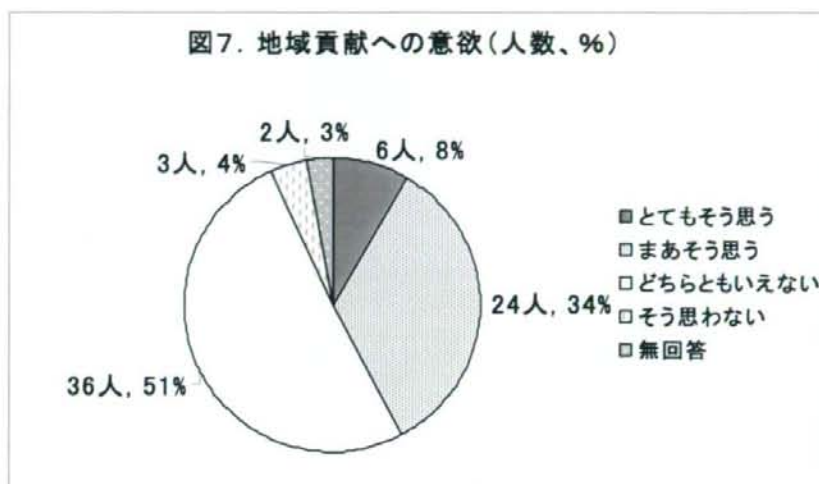
(1)近隣との信頼関係の築きやすさ

校区の方々との信頼関係の築きやすさをみると(図6)、「築きやすい」が5人(7%)、「まあ築きやすい」が32人(45%)と5割強を占めていた。



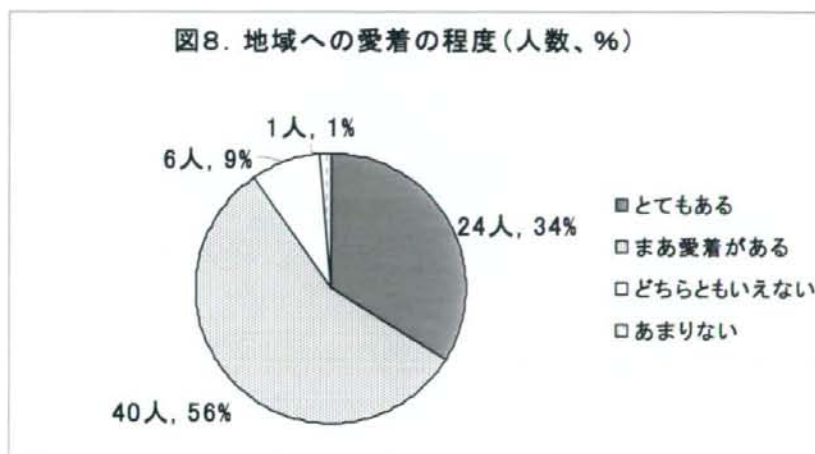
(2) 地域貢献への意欲

地域貢献への意欲をみると（図7）、「とてもそう思う」が6人（8%）、「まあそう思う」が24人（34%）、「どちらともいえない」が36人（51%）、「そう思わない」が3人（4%）、無回答が2人（3%）であった。



(3) 地域への愛着

地域への愛着の程度をみると（図8）、「とてもある」が24人（34%）、「まあ愛着がある」が40人（56%）と9割を占めていた。



(4) 校区や住民組織・団体への参加や世話役の数

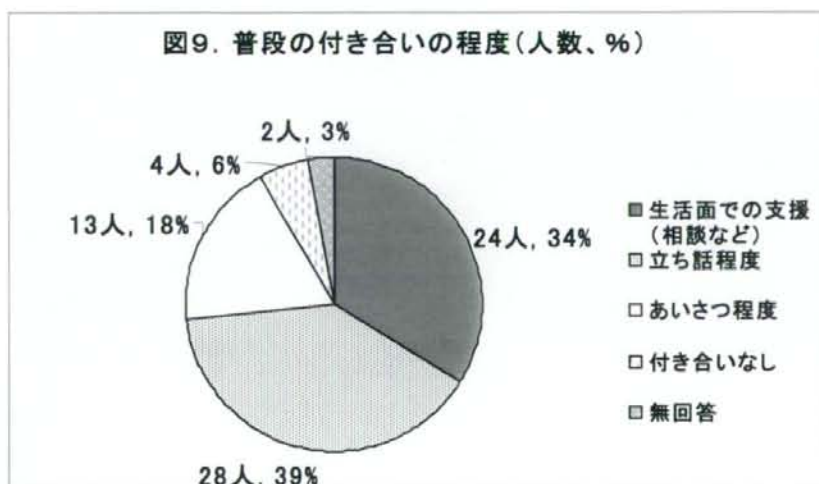
校区や住民組織・団体への参加や世話役の数を見ると(表3)、「1つ」が19人(26.8%)、「2つ」が19人(26.8%)であり、5割強を占めていた。

表3. 校区や住民組織・団体への参加・世話役の数

	人数	%
0つ	5	7.0
1つ	19	26.8
2つ	19	26.8
3つ	9	12.7
4つ	3	4.2
5つ	7	9.9
6人以上(~10人)	7	9.9
無回答	2	2.8
合計	71	100.0

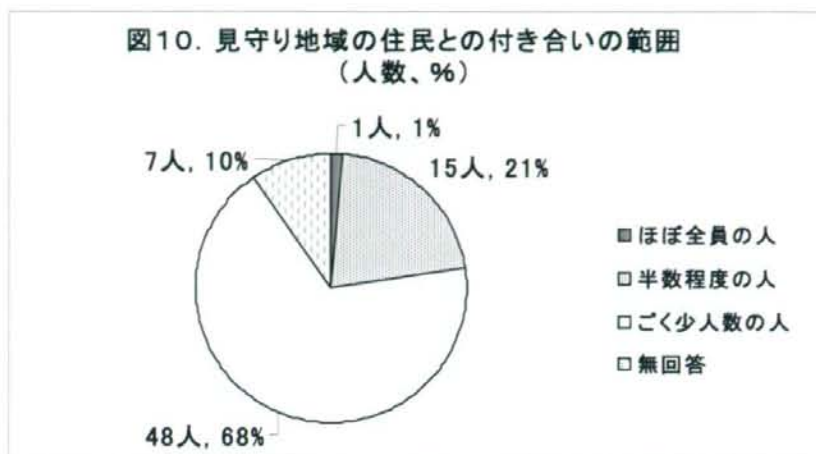
(5) 見守り対象者との普段の付き合いの程度

見守り対象者との普段の付き合いの程度を見ると(図9)、「生活面での支援(相談など)」が24人(34%)、「立ち話程度」が28人(39%)、「あいさつ程度」が13人(18%)、「付き合いなし」が4人(6%)、無回答が2人(3%)であった。



(6)見守り地域の住民との付き合いの範囲

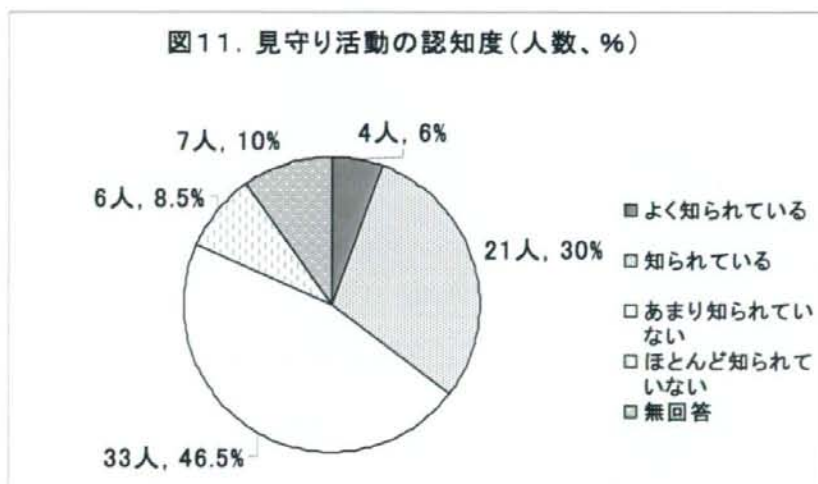
見守り地域の住民との付き合いの範囲をみると（図10）、「ごく少数の人」が48人（68%）であり、7割弱を占めていた。



4)見守り活動の認知度と活動内容

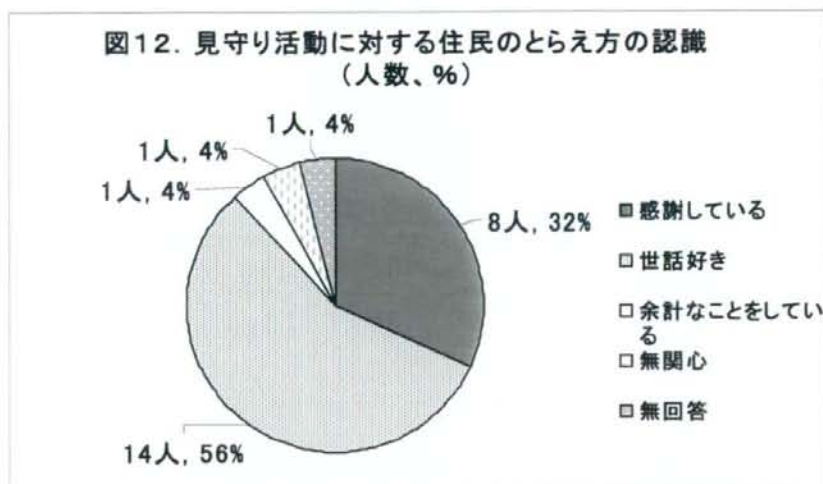
(1)見守り活動の認知度

見守り活動の認知度をみると（図11）、「よく知られている」が4人（6%）、「知られている」が21人（30%）占めていたが、「あまり知られていない」が33人（46.5%）、「ほとんど知られていない」が6人（8.5%）であり、約半数には知られていなかった。



(2)見守り活動に対する住民のとらえ方の認識

見守り活動に対する住民のとらえ方の認識をみると(図12)、「感謝している」が8人(32%)、「世話好き」が14人(56%)、「余計なことをしている」が1人(4%)、「無関心」が1人(4%)、無回答が1人(4%)であった。



(3)実施したほうがよいと思われる活動内容

実施したほうがよいと思われる活動内容は(表4)、地域高齢者の実態把握が最も多く、次いで見守り活動、交流の場の開催であった。

表4. 実施したほうがよいと思われる活動内容(複数回答)

項目	人数(n=71)	%
見守り活動	42	59.2
相談活動	30	42.3
保健・医療・福祉の情報提供	24	33.8
地域の連携・協力体制づくり	39	54.9
交流の場の開催	41	57.7
勉強会開催	15	21.1
在宅介護支援センターや行政等の関係機関との連携	28	39.4
災害時の対応	36	50.7
地域の高齢者の実態把握	47	66.2
その他	2	2.8

(4) 実際を実施している活動内容

実際を実施している活動内容は、見守り活動が最も多く、次いで交流の場の開催、相談活動であった(表5)。

表5. 実際を実施している活動内容(複数回答)

項目	人数(n=71)	%
見守り活動	40	56.3
相談活動	30	42.3
保健・医療・福祉の情報提供	16	22.5
地域の連携・協力体制づくり	22	31.0
交流の場の開催	38	53.5
勉強会開催	7	9.9
在宅介護支援センターや行政等の関係機関との連携	23	32.4
災害時の対応	6	8.5
地域の高齢者の実態把握	27	38.0
その他	4	5.6

表6-1. 地域での活動についての意見

● 具体的な活動状況や方針について

- ・ 災害時のための組織化をきちんと校区で立ち上げたいと思っている。
- ・ 高齢者子育てについては一定校区で取り組んでいると思っているが、障害者についてがとて遅れていることを痛感しており、秋から少しずつ立ち上げようと思っている。
- ・ 退職者など行政から半公的機関のような組織をつくり、各校区に20~30名願する。
- ・ 児童・生徒の安全見守り活動と校区の安全パトロールを集中的に行っている。
- ・ 数はわずかだが必要といわれたら出向いている。
- ・ 一人住まい・身障者・寝たきり高齢者などのマップづくりをして交流会などに力を入れる。何らかのキャンペーンをする。
- ・ 一人暮らしの家に気をつける。
- ・ 民生委員でサポートする会を有志でつくり、情報を提供したり、訪問にも同行、毎月民生たよりを独居者に配布している。
- ・ 担当地域の寝たきりの方の災害時の対応について自治会などと協力、体制作りを強化したい。
- ・ ケアマネ訪問日に声がするのに玄関が開かず、救急車・民生委員を呼び、一命をとりとめたことがある。
自分の許す限り地域めぐりに時間を費やそうと思う。
- ・ 生き生きサロンやふれあい喫茶で月3回車の送迎をしている。参加者相互のつながりで困った時に連絡できることが重要。
骨折者や衰弱した者・連絡できなかった人・一人暮らしの人を早期発見した。